

6月9日、愛南町いやしの郷トライアスロン大会が西海地域で開催されました。

7回目を迎えたこの大会は、公益社団法人日本トライアスロン連合の公認大会。今年も全国から集まったトップレベルのトライアスリートが激しいレースを繰り広げました。

地元愛南町からも過去最高となる20人のトライアスリートがエントリーし、沿道で見守る家族や友人から大きな声援が送られました。

愛南町を舞台に行われた319人のトライアスリートの挑戦。選手、スタッフ、地域が一体となって盛り上げた大会を振り返ります。

南端の地でトライアスリートが 自らの限界に挑む



スイム競技を終えた選手たち。ウエットスーツを脱ぎながら自分のバイクめがけて疾走します



①バイクコースの上り坂に挑む選手。コース前半の4kmで156mの高低差を一気に駆け上がります②沿道の声援に応える選手。バイクコースには約200人のボランティアスタッフが沿道に立って選手を見守りました



BIKE

バイク 40km

周回の最後の直線を駆け抜ける選手。上位選手のトップスピードは時速50kmにも達します



バイク競技を終え、ラン競技に向かう選手。バイクを片付けてランニングシューズを履く時間も競技のタイムに加算されるため、トランジションでは1秒も無駄にできません

156mを一気に駆け上がる

日本でも屈指の難コースといわれる所以が、このバイクコースにあります。1周10kmのコースを4周回。スイム競技を終えた選手は、周回コースに入ると4kmで156mという高低差を一気に駆け上がります。ここがレースの勝負所。必死の形相でバイクをこぐ選手に沿道から惜しめない声援が送られました。

コースの後半は一転して、急な斜面を含む下りのコース。連続する見通しの悪いカーブをいかにリズムよく乗り切るか、高い技術が求められます。周回の最後の直線、トップスピードで観客の前を駆け抜ける選手の姿は、バイクコースの大きな見所になっています。



①



②



最後の力を振り絞ってフィニッシュを目指すトライアスリート。沿道からは絶え間ない声援が送られました

選手の皆様かんばって!!

RUN ラン 10km

①トライアスリートに声援を送る子どもたち②ラン競技では、選手と沿道の応援が一体になってレースを盛り上げます

選手に絶え間ない声援



①大漁旗を掲げて応援する地域の人たち。大きな声で選手を励ました②タッチを求める子どもたち。トライアスリートとのふれあいも応援の楽しみの一つになっています

ランコースは船越地区から久家地区にかけてのコースを3周回する10km。スイムとバイクで消耗した選手を序盤200mの急な上り坂が待ち構えます。決して楽なコースではありませんが、最後の力を振り絞る選手に沿道から絶え間ない声援が送られました。

今年のレースを制したのは、ランのラスト1周で逆転した倉橋開人選手(20)。2時間10分57秒で初優勝を飾りました。女子は細川江梨子選手(39)が2時間22分59秒で3年ぶり4度目の優勝を手に入れました。

優勝した倉橋選手は「沿道からの応援が多く、最後まで気持ちよく走りきることができた」とレースを振り返りました。



FINISH

フィニッシュ

319人のドラマ
 分かち合える
 感動がそこにある

大会参加者 319人
 完走者 309人
 ボランティアスタッフ 約900人